

(5) 小学校外国語活動

【平成27・28年度「熊本県学力調査」【意識調査A結果より】】

右表のとおり、外国語活動の授業が好きと答えた児童の割合は、5年生は増加しましたが、6年生は減少しました。下記の5つの指導の重点に気を付け、視聴覚教材等を活用するなど、さらなる授業の工夫改善を図り、「外国語活動が好き」な児童を育てましょう。

外国語活動の授業は好きですか		
上益城	H27年度	H28年度
小5	83.8%	84.4%
小6	73.1%	70.5%

(「アとても」+「イまあまあ」の割合)

また、平成32年度には、小学校英語教育が教科化されます。それに向け、日々の外国語活動の取組を充実させましょう。

(平成28年度小学校外国語活動の指導の5つの重点)

学校総体としての取組の充実を！

【取組例】

授業研究会や校内研修の充実をお願いします。
各英語関係研修会の復講、資料配付、研究授業指導計画、展開案、教材・教具等の整備

学校にどのような教材・教具・カードがあるかを確認し、全職員で情報を共有し、活用しましょう。

小中連携の尚一層の充実

【取組例】

小・中の情報交換、相互の交流授業等
カリキュラムや指導方法等の連携
共通の言語活動の実施等



中学校区単位で、使用する教室英語や活動について、情報を共有しておきましょう。

教室英語の積極的使用

【取組例】

児童を褒める言葉の積極的使用
児童の前で、平易な英語表現でALTと会話



児童の前で、先生が一生涯懸命子どもたちの聞いたことのある英語で会話をする姿が子どもたちのお手本となります。

1 単元を通した授業設計

< 単元の目標 >

授業を1時間で考えるのではなく、単元終末の児童の姿を明確にしたうえで単元の目標を設定する。

単元の終末の児童の姿を明確にしておき、そのためにどうすればいいかを考え、毎時間の授業を組み立てていきます。

< 本時の目標 >

単元の目標の達成につながるように、本時の目標を設定するとともに、それに応じた活動(慣れ親しむための言語活動やコミュニケーション活動など)を実施する。

英語でコミュニケーションを図りたくなるような場面設定を工夫し、しっかりと慣れ親しませましょう。

コミュニケーション活動の充実

< 充実させるポイント >

場面設定 必然性 内容の吟味 慣れ親しみ

